

萬福寺だより

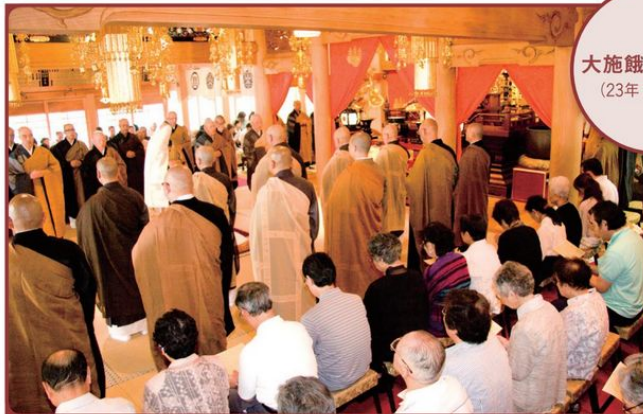
馬 込 から 気 持 ち の よ い 風 が 吹 い て く る

発行 / 曹洞宗 萬福寺護持会

2012年夏号 / no.12 / 平成24年7月1日発行



孟蘭盆会法要
(23年7月13日)



大施餓鬼会法要
(23年7月23日)



我が家の菩提寺

萬福寺護持会 会長 波田野 鈴雄

我が家の菩提寺は曹洞宗慈眼山萬福寺である。ところが法事などでお宅は何宗ですかと聞くと、「えーつと、うちは何宗だったっけ?」という方が結構いるものである。平安中期以降、戦乱・天災等により、民衆は末法(仏道修行をしても効果がないとされる)の世におびえていた。鎮護国家の仏教であった当時の天台宗・真言宗からの自立を計り、栄西・道元が中国の宋から禅を伝え、浄土教・法華信仰も盛んになり、民衆の実践仏教となる新仏教が出現してきた。

鎌倉時代になると、浄土宗・臨済宗・曹洞宗・浄土真宗・日蓮宗等の宗派が出現した。念仏か、禅か、題目かのうちの一つの行を行なう仏教は簡単であり民衆のなかに溶け込んだ。故に、平安時代までの国家や貴族中心の「旧仏教」から「鎌倉新仏教」と呼ばれるようになった。なお、全ての開祖が比叡山で修行している。

曹洞宗では他宗の宗祖にあたる祖師を「両祖」といつて二人立てている。高祖の承陽大師道元・太祖の常済大師瑩山紹瑾で高祖は父、太祖は母にたとえられている。道元は禅の専修道場として興聖寺(京都府・永平寺(福井県))を建立し「法統(宗旨)の祖」といわれる。瑩山は下級武士や商人・農民の教化を行ない、1万5000寺といわれている今日の教団の礎を築いたので「地統(教団)の祖」といわれている。

以来、現在にまで及ぶ曹洞宗、その慈眼山萬福寺が我が家の菩提寺である。

参拝・焼香の作法について

住職 安本 利正



お焼香は急いで3回するよりも
つまんだ香を丁寧に眼前に上向きに捧げて
ゆっくり1回のほうが心がこもります。
また、お墓への線香は多いほど良いとされ
「多くの煙で広く清める」という意味があります。

☆
インディ・カンジ首相は今から約30、40年前のインドの女性首相であり、一九六九年に就任され、一九八四年に暗殺されるまで15年間を大活躍された首相です。私は仏教参拝団の一員として永平寺の泰慧玉禅師と共にニューデリーの私邸を訪ね、その後日本でも2回、インドでも1回、合計4回面会しました。その頃の私は、全日本仏教会の国際文化局長の役職でした。特別にお会いする機会があつて幸運でした。

お焼香の仕方



①はじめに焼香台の前で合掌して深く一礼します(数珠は左手にかけます)。

上げ、その上に布で包んだ御遺体を乗せて火葬の儀式が始まりました。積み上げられた薪は大きさが全部揃って、角も同じ大きさで丸く落として形を仕上げていた(後日インド大使館で聞いた)、その薪は全部が印度白檀の樹材であったと言われて、驚いた。昔お釈迦様の火葬の時多くの信徒達



仏壇へ立てる線香は1本で良いが、お墓での線香は多いほど良いとされています。

が香木を集めて火葬したことが涅槃経の中に書いてあるの、私の驚きは更に大きな感動でした。テレビの画面では火葬の様子を映して、火葬の側面に長い木の板を並べて長い坂道のような段が作られ、参拝者はその段を上って、火葬に近づくことができるようになっています。参拝者達は坂道を上って火葬に近づく、腰に下げた布の袋の中へ手を差し込み、香を手に握って火葬に振り掛けて焼香している姿が、画面に大きく映されて私は驚いた。

日本では葬式や室内儀式では粉末の香で焼香しているが、その作法は宗派によって色々に言われるが、丁寧に香を手に握って、眼前に捧げて焼香する。日本語では目下で区別しており、つまんだ香は眼前に上向きに捧げて焼香すれば、ゆっくり1回がよいでしょう。急いで3回するよりも、丁寧に1回が良いです。墓地や仏壇へ線香を立てる時も同じです。線香を眼前に捧げてから立てることが肝要です。



③顔を下げて香をつまんだ右手を上向きにして目の高さまで揚げ、思いを念じて3回するよりも、丁寧に捧げて1回のほうが心がこもります。

第2回写経会

心静かにゆくりと書く
気持ちが落ち着き無私の心へ

第2回写経会

二回写経会が5月20日(即午後1時から開催されました。

萬福寺護持会副会長の波田野 章研修委員長が「前はは大勢参加いただいたので、今回は13時から14時からの2回に分けて開催する」旨の挨拶の後、お手伝いの鈴木百合子さんから「楽しみながらのびのびと書いてください。急がないでゆくりとの説明があり、写経が始められました。今回の参加者は2回合計で24名でした。第一部の写経が終わった段階で、安本由道副住職様が写経の仕方、心構え等について次のような説明がなされました(要旨)。

「般若心経は276文字による経典で、写経を通して知らず知らずのうちに、その教えが身についていきます。人はじくなつて仏様になる」のではなく、生きていくときに仏様の心・姿を学び、仏様に近づけるような行いをしたい。無念無想にはなかなかありませんが、心と姿勢を整えて写経を続けていけば、正見の心が養われていくものです。年度末の来月3月には皆さん方の写経をまとめて奉納・納経することになっています。心静かに写経に取り組んでください。



凝縮された言葉が「般若心経」です。「摩訶般若波羅蜜多心経」の「まかは偉大な」という意味で「はんにや」は「知恵、はらみつた」は安らぎに至る人生は色々、な苦しみがあるが、この「般若心経」には仏様の教えが書かれています。

春彼岸法要

平成24年3月20日(火)
心法話
「おかげさまの心で」
笑い療法士再び登場

堂で春彼岸法要が執り行われまし。当日は午後1時から「心の法話」を浄土真宗本願寺派の笑い療法士 赤川浄友老師が「おかげさまの心で」仏教の出番、笑い療法士再び登場。笑いがあふれ、元気があふれます。まさに大きな声で歌をうたう、あつたはつと笑うことが大事なのです。笑える人は

元気が出て頑張れるのです。1日に5回笑って、5回感動しましょう。私がお世話になっている無着成恭先生(禪宗の僧侶・全国で電話相談室の回答者)は「お寺というところは死んでから来る所ではありません。お経は生きていくときに聞くものなので」と申されています。お経はお釈迦様が説いたお話を文章にしたものです。お経を聞くことはお釈迦様のお話を聞くということなのです。死んでから来るものではないのです。生きているときに、お経を聞いて慰められたり、元気をもらったり、勇気をもらったり、正にお寺はシェルターなのです。



鈴木百合子さん 安本由道副住職

「笑う門には福来る」の諺がありますが、笑うと免疫力アップ、元気があふれます。まさに大きな声で歌をうたう、あつたはつと笑うことが大事なのです。笑える人は



心の法話 (3.20)、内内は赤川浄友老師

も成仏なさつておられる。奥様もいづれ向こうに逝くんですから、また会えるんですよと言った。ニコッと笑ってくれました。また「おかげさまの心」「蓮花生」などの説明がなされ、最後に「夕焼け小焼け」(詩・中村雨紅/曲・草川信)を全員で合唱しました。笑いの大切さをお話しされたがら

INFORMATION

仙事のご案内

ご家族皆様で参加しましょう

7.13

盂蘭盆会法要

12時(正午)から新盆法要、午後1時から法話、
2時からお盆法要

7.23

大施餓鬼会法要

午後1時から法話、2時から法要

9.22

秋彼岸法要

午後1時から法話、2時から法要

10.28

鬼子母神祈願法要

午前11時から

お知らせ

大本山總持寺参詣 日帰りバス研修視察

10月上旬の平日、横浜・鶴見の「大本山總持寺参詣と横浜中華街での親睦食事会」の日帰りバス研修視察を企画しています。

檀家様、それ以外の方も参加できます。昨年5月に大本山永平寺に参詣しましたが、もう一つの大本山總持寺へ皆さんでお参りしましょう。

※参加ご希望の方は萬福寺受付へお申し込みください(仮申し込み)。

仮申し込みをされた方にはご案内状を郵送させていただきます。正式なお申し込みはその後になります。よろしくお願い申し上げます。

御葬儀・法要の連絡は 萬福寺本堂総受付まで

法要は「追善法要」ともいい、故人が浄土で安楽であるようにと願いを込めて行うものです。年忌法要は葬儀とは違い予定が立てられます。できれば半年前、少なくとも3カ月前には準備を始めましょう。

梶原殿の会場使用料(通夜・葬儀、2日間)
・檀信徒 10万円～20万円 ・一般 20万円～30万円
※予算は密葬、本葬のご人数で異なります。

御葬儀・法要のお問い合わせ・申し込み

萬福寺本堂総受付 ☎03-3771-2025

お花まつり

平成24年4月8日(日)

お釈迦様のご誕生を祝う「花まつり」が行われました。



花まつり(水盤)に安置された天と地を指差した誕生仏のお釈迦様に、参拝者それぞれが小さな竹の柄杓で甘茶をかけてお祝いしました。

お釈迦様の発掘調査に安本ご住職様が関与！

花まつりの後、安本ご住職様は資料(ルンビニーの法話/ブッダの誕生、解脱の使命をもつてお釈迦様は生まれた、など)を基にお釈迦様誕生の地ルンビニー(ネパールの遺跡について説明されました。

二十数年前、私は全日本仏教会の国際文化局長をしていた頃日本で世界の仏教会の会議があり、お釈迦様生誕の地を発掘する決議がなされました。3年間は準備に追われ、4年目からほぼ10年で色々なことが明らかになりました。

発掘には国際文化局長として関与しましたので、少なからず縁があります。

お釈迦様生誕の地ルンビニーの中心にマヤー堂があり、傍にあるアショーカ石柱には古代文字がくっきりと彫ってあります。「アショーカ帝王(紀元前3世紀、インド・マウリア朝第3代の王)が、王位20年目にここへ来られた。そしてお釈迦様がこの地で生まれたことを示す石柱を建てられた。お釈迦様が誕生した地を守る代わりに、この地方の税金を8分の1にした」といった内容が書いてあります。

発掘には、日本の仏教会や学者が研究、協力しています。お釈迦様生誕の地を示す印石(標識石・マヤーストーン)を発見したのも日本の学者で、日本仏教会として画期的な成果をあげました。

これによってお釈迦様が実在していたことが証明されました。宗教界では想像が多くなかった、この事実をもっと宣伝していいのではないかと、と思います。

このあと大書院の入口付近に飾ってあるお釈迦様誕生の図3点について説明がありました。

〔寄稿〕

大田区 加藤京子

15年程前に萬福寺にお墓を建て、主人のよき散歩路でした。平成15年に主人が亡くなり、当時を想いつつ短歌を書かせていただきます。

金木犀好みし夫は花も見ず

突然に逝く秋の夕暮れ(平成15年9月29日)

苦しみに耐えて過こし日々なれど

娘に看取られし夫は幸せ

銀杏散る二人で建てし墓所

われ置き去りに夫は入りたり

躊躇いつつ投稿せし

短歌入選す懸崖の菊今盛りなり

「おめでとう」拍手によぎる夫の顔

見て欲しかった受賞の涙(15年11月3日)

「トロフィー」を仏前に置き報告す

「よかった、よかった」遺影微笑む

(大田区短歌会)

人ひとりおらぬ菩提寺落葉舗道

亡父と語らう九回忌命日(23年9月)

編集後記

ご先祖の霊を迎え、また送るお盆。この時期はご先祖様だけでなく、お中元のご挨拶や家族・親戚揃ってのお墓参りなど、普段ついご無沙汰の方との出会いの時期でもあります。また、ふるさとへ里帰りされる方もありましょう。

人との出会いを大切にしたいと思いながらも、現代社会のあわただしさの中では、なかなか思うようにいかないのも現実です。ましてや、自分と向き合う静かな時間を持つのは至難のことかもしれません。

今年から、護持会の研修委員会では、写経の会を催しております。本号記事にもありますが、お寺の静寂な一室で心をこめての写経のひとときと、参加の方々とお茶をいただきながらの語らいの楽しさを体験してみませんか。お寺での新しい出会いの機会に、ぜひ皆様お出かけください。